

お初天神 ヤミ市から恋人の聖地へ

写真は朝日新聞 21 日朝刊。大阪市役所の帰りに寄り道するので抜粋して紹介したい。大阪・キタに、そこだけ時代に取り残されたような一角がある。露天神社。というより、通称のお初天神の方が通りがいい。

1703(元禄 16)年、遊女のお初と醤油屋の手代・徳兵衛が一带の森で情死した。この心中事件を題材に近松が書き上げた人形浄瑠璃「曾根崎心中」が当時、大ヒットした。

明治期以降、周辺は大阪駅を中心に開発が進んだ。お初と徳兵衛が歩いた蜷川や天神の森は姿を消し、曾根崎は飲食店が集まった。時代は変わって 1945 年。大阪大空襲で店の多くが焼失した。

焼け野原となった曾根崎にはバラック建ての店が再建され、境内に店舗を構える人も現れた。一時は狭い境内に 100 軒以上がひしめき合ったとされる。67 年 2 月 3 日の朝日新聞大阪本社版朝刊の記事は「終戦後のどさくさの中で出来たヤミ市が、そのままずると飲食街になり、約 30 軒の小料理屋、バーなどが残った」と書く。

現在の神社周辺は「曾根崎お初天神通り」のアーケード街を中心にスナックや居酒屋が密集。その周りをホテルやオフィスビルが取り囲む。お初と徳兵衛が果てた森の面影はない。2013 年、お初天神は NPO 法人地域活性化支援センターが選ぶ「恋人の聖地」の一つになった。それも後押しして、縁結びを願って参拝する若い世代が今は多い。

写真 2 枚は、市役所の帰りに先日撮ったものだ。凍てつく寒さだったので、参拝客は私だけだった。レポートで

も書いたが、「露天神社」が「つゆの天神社」とは「つゆ」知らず、「ろてん神社」と長らく思っていた。でも、今回の記事で戦後初期には 100 軒以上の店(露店)がひしめき合っていたようだ。「ろてん神社」のような感じだったかもしれない。

境内には、「恋人の聖地」をセールスポイントにしているところが何カ所もあった。「闇市から恋人の聖地」へと移り変わる様子が、昔と今の写真から浮かび上がっている。梅田に数少ないパワースポット。恋人だけでなく、「老人の聖地」としてまた訪ねたい。

(2023 年 1 月 29 日)

